# ふくしま県人会だより

第　５　号
平成１４年１月
編集発行
福島県人会
北海道連合会

## 新年のごあいさつ

会長　上田　小八重

新年おめでとうございます。

二十一世紀二年目を、県人会の皆さまと共に迎えましたこと、喜びに存じます。

昨年は、新世紀への発展をこめた「うつくしま未来博」に、道連合会として母県訪問団を組み、参加できましたことは、この上もない喜びでありました。

「美しい空間、美しい時間」をテーマに、日本ではじめて森の中で開かれる博覧会といわれ、「未来を美しくやさしい心でたくましく生きていく夢を、共に作りあげよう」とのメッセージがこめられていました。

「民話茶屋」では、県内在住の数少ない語り部であったのに対し、語り部スクールを開催、修了生約百八十名が登録、参加しているといいます。未来を見据えた配慮が、何とも嬉しく、頼もしい「未来博」でした。ＣＤやビデオを購入してきて、函館でも皆さんに披露いたしております。

二日目の夜は、歴代の道事務所長や職員の方々が十二名ご出席下さり、賑やかなひとときを過ごしました。

また、三日目には、県庁に知事を訪問いたし、道内会員の皆様にも「よろしく」とのことでありました。

昨年開館された大好評の「アクアマリンふくしま」の横に「水生生物保全センター」がオープンし、無料で公開されております。「あぶくま高原道路」開通や「県男女共生センター」オープンなど、県民の生活向上の施策がきめ細かに充実してきております。

母県からは、隔月刊「グラフうつくしま」が送られてきて、日々発展する姿に身近に接することができ、知事の細かい配慮が偲ばれます。

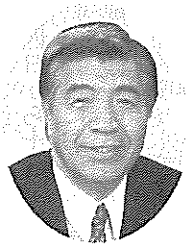
北海道に関わりの深い狂牛病問題から、自衛隊派遣を含むアフガン攻防まで、地球ぐるみの動きは、私たちの生活を直撃してきます。こうした中にあって、ふるさとをひとつにする私たちは、発展してやまない母県を支えに、力強く前進することができます。

ことしの道連合会総会は、駅前再開発の成った帯広市で開催されます。開催地の皆さんにはご苦労をおかけいたしますが、お元気でお会いできますよう、盛会を期待いたしております。

各地県人会の皆さまのご健康とご発展をご祈念申しあげて、新年のご挨拶といたします。

## 新年のごあいさつ

福島県知事　佐藤　栄佐久



新しい年の初めに当たり、福島県人会北海道連合会の皆様の御多幸を心からお祈り申し上げます。

貴県人会におかれましては、昭和四十八年の結成以来、ますます発展を続けておられますことは誠に喜ばしいかぎりであり、役員の皆様をはじめ会員の皆様には、日ごろから、ふるさと福島県に対しまして、格別の御支援をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

また、昨年開催いたしました「うつくしま未来博」につきましても、多大の御支援を賜り、改めて御礼を申し上げます。おかげをもちまして、百六十五万人を超える方々をお迎えし、「人と自然との共生」や「参加と連携による地域づくり」などのメッセージをアピールするとともに、本県の様々な魅力も発信することができました。今後、未来博の成果を県政各分野に継承・発展させてまいりたいと考えております。

さて、本県では、昨年三月に一部供用開始いたしました「あぶくま高原道路」や、十月に郡山・会津若松間の全区間四車線化が完成いたしました磐越自動車道など、七つの生活圏を結ぶ幹線道路網の形成が一層進むとともに、一月に男女共生センター、七月に県文化財センター白河館「まほろん」がオープンするなど、本県の更なる発展に向けた基盤も着実に整備されているところであります。

こうした中、本県におきましては、「人間・人格・人権の尊重」や「自然との共生」などを県づくりの基本理念とする新しい長期総合計画「うつくしま21」の下、県づくりの基本目標である「地球時代にはばたくネットワーク社会～ともにつくる美しいふくしま～」の実現に向け、様々な施策を展開

しているところであります。

県人会の皆様におかれましては、本年も、二十一世紀の日本をリードする「うつくしま、ふくしま。」の実現のため、一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、福島県人会北海道連合会の限りない御発展と、会員の皆様の今年一年の御健勝、御活躍をお祈りいたしまして、新年のごあいさつといたします。

## 各県人会だより

### 紋別地区福島県人会だより

**「今昔物語り」**

当県人会は昭和五十二年（一九七七年）、生方義八氏の呼び掛けで誕生した。その頃は県出身者を捜し出すのが大変で少人数で発足し、会の名称も紋別福島県人会であったが、数年が過ぎて、滝上町にも湧別町にも、更には遠軽の自衛隊の中にも沢山県出身者が居る事がわかり、名称も変更して紋別地区としたものである。会員の中には設立当時から鹿島町出身（親が）の方がいて、会の結成後、間もなく紋別市長に当選され、以来紋別市内では福島県人会は一躍名をなしたものである。滝上町には商工会の会長が居たり、遠軽には自衛隊駐屯地指令（連隊長）が居たり、年に一度の総会は、それはそれは盛会を極めたものである。

北海道連合会の総会も二度、第十八回（平成二年）と二十五回（平成九年）にお引き受けを致し、佐藤知事ご夫妻の出席を頂いて盛会裏に終わったことは我が県人会の誇りでもある。

以来約四半世紀、設立当時の会員も年齢には勝てず、死亡、退会等が増え、年々会の活力が衰えていくのが残念でならない。このことは一人当方だけの問題ではなく、各県人会同じ悩みであろうと思うが、致し方のない現象と諦めるしかないのか。若年層が少なくなってきているし、若い県出身の学生が居たとしても、吾々とは異なり、母県に対する愛着心が薄く、なかなか呼び掛けにも応じてくれないのが現実である。母県訪問の案内を頂いても体力的に辛い人も増えてきている。これら弱体化していく県人会をどう立て直すか等別に名案はないが、このオホーツク沿岸には根室から利尻まで、福島県に特に縁が深く、会津藩士が北の守りについた痕跡が沢山残っている。これらを訪ね歩くツアーとか、五十年前の母県をしのぶ会とか、何か目先を変えた試みで、例え一時でも活力が湧くような方策はないものだろうか。

新年早々、少し暗い話になったが、お許し下さい。

（紋別地区福島県人会　幹事　佐川　達人）

## 会員通信

### 福島県物産展

札幌県人会　佐々木　俊介（定男）

十月四日から十日まで、東急デパート九階催物場において、恒例の福島県物産展と観光展が開かれた。

初日正午過ぎに顔を出すと、買い物客でにぎわっていた。

米や梨を送る手続きをしている老婆、お菓子を試食しているご婦人、臨時の食堂で喜多方ラーメンを食べている家族、からむし織りの実演を見入っている紳士など、様々な人間模様が展開されていた。

私は二本松箪笥を見ながら、幼い頃家にあった箪笥の記憶に思いを寄せた。母親が嫁入り道具に持ってきたのだろう。

五十年前、伯父に連れられて、昭和村に今なお残る日本の伝統「からむし織り」を見たことがある。再びこの会場でみる機会があって、懐かしさがこみあげてきた。

この日は相馬焼きの納豆鉢を買ったが、湯飲み茶碗の色、艶、模様を手にして見ると、父親が愛用していたのと同じであった。

翌日、厚かましいと思ったが、買い物客に母県と縁があるかどうかを聞いて歩いた。

二十人ほどではあったが、大半の人は両親のいずれかが福島県の出身であることが分かった。毎年、欠かさず顔を出している人、初めて来た人など、素朴な風情の匂いに誘われて足を運んだのだろう。

北海道事務所のスタッフも汗を拭きながら客の応対に追われていた。

五日目、函館に住む弟に梨を送ってから一回りをした。

すると箪笥のコーナーでは、六本に「御約定」の札が貼ってあった。買った人の目の高さが想像できる。

六日目は午後から会場に行った。

相変わらず笹だんご、くず菓子の人気は高く、中には三、四箱も買っている老婆がいた。

木工製品では欅（けやき）箪笥と会津桐箪笥が注目されていた。

まさに手作りの逸品で、ここでも三百年の伝統は生きていた。

北海道では「猫脚」の名がついているお座敷テーブルは製作工程の基本が同じで、張り合わせの木材を使用してはいない。

木目の確かさ、色塗りの技法、輝く光沢、洗練されたデザインなどは、本

道の製品と比較しても遜色はなかった。
じっと見ていた和服姿の老婆は、製品は気に入ったものの、大きさに不満があるらしく、希望通りの製品を福島から直送することで落着した。来春に結婚する孫のプレゼントにすると笑顔で話していた。
丈夫な作りと伝統の柄で知られている会津木綿、個性豊かなこけし、馬革、牛革で作られたハンドバッグなど、実演していた職人の技に魅せられる。
小名浜を母港に持つ太平洋岸の魚介類や乾物が少なかったように思った。
「歴史とともに磨き伝えるぬくもりの確かな技」「海と大地の豊かな恵みが作り出す自慢の味」のキャッチフレーズのとおり、福島県を売り出した今回の物産展は、古里を離れた人達と道民との絆を深めたと思う。
来年はお国自慢の民謡の唄い手や踊り子を連れてきて、会場を盛り上げてほしいと願うのは私だけではない。
我が母なる福島県は健在であった。

## 新会員紹介

**帯広県人会**
佐藤　一男　　郡山市
上地　智恵子　　福島市

**浜中町県人会**
二瓶　公雄　　三島町

**紋別地区県人会**
佐藤　浩一　　相馬市

**苫小牧県人会**
歌川　春雄　　会津若松市

## OBのお便り

### “福島県の多様性”について

第九代　所長　小林　憲雄

平成十一年三月福島県を退職し、現在は（財）福島県農業振興公社に勤務しております。北海道勤務は昭和六十一年より三年間でしたが、この間皆様には大変お世話になりました。改めて心より感謝申し上げます。
県職員生活三十七年の間、県外での生活は初めてでしたので、外部から福島県を見つめる機会を与えていただき、北海道において、今まで気付かなかったことを改めて認識する等、随分と貴重な経験をいたしました。
そのひとつは、福島県のもつ自然的、歴史的多様性であります。県の観光、物産等を説明する時、福島県のイメージがわかない、知名度が少ない等のご意見を多くいただきました。その要因は、多分にこの多様性にあり、一点集中的なイメージに欠けるのではないかと思いました。
そこで改めて考えてみると、まず本県の位置は、緯度的には北海道の宗谷岬と鹿児島県の種子島のほぼ中間になります。その結果、県内に栽培されている農作物の種類、品種を例にとると、南限のものと、北限のものとが混在しております。
また、歴史的にも幕末の本県には十一の藩と十四の飛領があったといわれており、隣の伊達藩の宮城県と比較すると歴史的な特異性が際立っております。従って、これらの特質が本県のイメージアップ上、マイナス要因として作用してきたことは否めないのではないかと思いました。
しかしながら、新潟のコシヒカリ、青森のりんご等のスーパーブランドこそありませんが、価値観、消費者ニーズの多様化が叫ばれている今日、視点を変え、この特質を逆手にとり、米については、コシヒカリを中心にひとめぼれ、初星の三点セットの産地として、くだものについては、さくらんぼ、もも、なし、ぶどう、りんご、柿と年間のくだものシリーズ（くだもの物語）として、また、観光面についても、封建領主が多数存在したことを背景に、各地の歴史的遺産、お祭、食文化等を統一的な戦略として機能させる等、この本県のもつ多様性を積極的に活用する事が重要ではないかと痛感した次第です。
以後、多少なりとも、このような考えをもとに仕事をしてきたつもりです。
時折、テレビ等で北海道の情景を観るとき、福島県人会北海道連合会の皆様を懐かしく想い出しております。

### 第十一回母県訪問旅行に参加して

第六代　次長　法邑　昭作

平成十三年七月初旬、NHKテレビで福島県須賀川市で『うつくしま未来博』が開催されることを知り、はじめはたいした関心も持たなかったが、考えてみると、県を退職してからはや十五年という時間が経過し、私自身も古希を過ぎて満四年、目、耳、頭の退化をつくづくと感じる今日この頃でありました。すると俄かに昔の上司、世話になった同僚等に会いたいという願望が湧いて出て、とにかく県事務所に赴き、博覧会の資料でもないかなあと尋ねたところ、九月に「母県訪問旅行」

の計画があり、今から申し込んでも、まだ間に合うとのことでした。勝手知ったる福島県内とはいえ、十五年のブランクはいかんとも致しがたく、特別参加ということで、県人会の役員にもご了解を得て参加した次第であります。

九月十八日十一時二十分新千歳空港発ＡＮＫ三四二便に搭乗、一路福島空港に向かい、到着後直ちに貸切バスにて博覧会場に向う。会場は空港から約十分の近さ、昭和四十九年福島農政事務所在勤時に訪れた時の、建設工事中のイメージとは格段の違いに驚く。また、乗客から「暑いなあー」と気温の差に歓声があがる。

到着後事務局からの歓迎を受け、銘々会場を探訪する。須賀川市郊外の工業団地予定地の利用とか、仮設の建物が大部分で無用の投資を極力抑えた配慮が窺えた。夕食も同会場内ですませ、光と影のアトラクション『ナイトファンタジア』を鑑賞後、初日の宿舎母畑温泉『八幡屋』に旅装を解く。鄙には稀な近代建築のホテルに驚く。特に真四角の中庭は西欧のホテルと見紛うばかりの豪華さに感服する。

明くれば九月十九日、好天で暖かく申し分の無い旅行日和、車は一路安積路を会津に向けひた走る。途中には優良な果樹や野菜の集団産地が形成され、水田再利用の成果を見て時代の変遷を目の当たりに感じた。「野口記念館」「天鏡閣」を経て、若松に入り、『渋川問屋』といういかにも会津らしい食事処で昼食。酒の会津のシンボル「会津酒造歴史館」で美酒の試飲に喉を鳴らし、銘々今夜の寝酒を確保する。鶴ヶ城、武家屋敷と定番の観光コースをこなし、一路磐越・東北自動車道を北上、飯坂インターチェンジを降り、飯坂温泉『あづま荘』で二夜目の宿舎をとる。当夜は特に県北海道事務所に勤務経験のある先輩各位のご出席もあり、各県人会からの参加者との久闊の再会を語り合い、こころ温まる団欒が随所で持たれた。本当に福島に再び来て良かったとしみじみ実感した次第です。

最終日の九月二十日は、今回の訪問旅行の締めくくりとして県庁を訪問。佐藤知事から歓迎の言葉をいただき、知事公館前庭で記念撮影。母県のますますの隆昌を祈念し、梨狩りなど予定された行事を終え、郡山駅前にて解散。夫々生まれ故郷に向う人、また福島空港等から夫々無事帰道しました。

## 県内動向

**第57回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会**
**（平成14年1月26日～、帯広市）**

**第15回全国健康福祉祭ふくしま大会**
**うつくしまねんりんピック２００２**
**（平成14年10月19日～22日）**

高齢者を中心とするスポーツ・文化・健康・福祉等の総合的祭典である全国健康福祉祭第15回大会が「ほんとうの空に輝け　ねんりんの輪」のテーマのもと、福島県内10市13町1村を会場に開催されます。

『美しい出会い』『美しいふれあい』『美しい未来』が創造できるような大会として、次のような実施目標を掲げ開催します。

**1　ともに生きる社会づくりを描く大会**
**2　高齢者が創る大会**
**3　地域・世代間を超えた交流ができる大会**
**4　豊かな自然環境や様々な伝統文化を生かした大会**

全国から大勢の参加者が本県を訪れるこの大会は、“うつくしま、ふくしま。”の魅力を全国に発信する絶好の機会でもあり、県民総参加のもと、大会をおおいに盛り上げてまいりたいと考えておりますので、皆様の御支援、御協力をお願いいたします。

大会マスコットは、国体や未来博でもおなじみのキビタンです。

また、キャンペーンスタッフ五名も決定し、ふくしま大会の成功に向け、明るく、元気に活動しています。

## 編集後記

昨年は同時多発テロ、牛海綿状脳症など心を痛める出来事が多発しましたが、今年こそは不況も跳ね返し、飛躍の年にしたいものです。

皆様のご多幸をお祈りします。（河野）

平成13年十大ニュースの上位には暗い話題が多かったようです。今年は明るい話題が並ぶと良いですね。（酒井）

【春】春といえば桜。本州の桜前線情報を気にしながらいまかいまかと開花を待つ。待つこともこれまた楽しい。

【夏】木々の芽吹きとともに人の動きも活発になる。パワーを感じる季節。盆と正月が一緒に来たようだ。（少し大げさか）

【秋】紅葉がすばらしい。熊さえいなければ、山登りに精を出していたのだが。

【冬】純白がまぶしい。寒いのは当然だが、空気のおいしさを味わえる。雪かきにより体も鍛えられ心身ともに充実する季節。

北海道のすばらしさを心にも体にも蓄積しています。（太田）

それにしても21世紀最初の年の世相を表わす文字が「戦」とは。でも、いろんな意味で争いが絶えない人類の性を象徴している言葉かも。

今年は北海道事務所開設五十周年。同じ「戦」でも挑戦にしたいなー。（高田）

事務所のパソコンに侵入したウィルス、携帯電話の迷惑メール等、情報化社会に伴う弊害を実感しています。セキュリティ管理は万全に整えたいものです。（竹林）